

新健康協会では、新しい健康法を伝える「健康新聞」を毎月発行し、人間のもつ治癒力や適応力をお伝えしています。肉体的、精神的なコトでお悩みの方も是非一読されてみてください。

健康新聞

発行所
発行人

新健康協会

〒813-0001

福岡市東区唐原6-7-1

TEL:092-661-1531

https://shinkenko.jp



次の御論文は明主様(当協会の教祖)が発表されたものであります。
世界平和と心身共に健全な人間作りを目指す活動に御理解を頂ければ幸甚です。

常識

そもそも真の信仰とは、言語行動が常識にはずれない事を主眼としなければならぬ。世間よくある神憑式や、奇怪な言説、奇矯なる行動等を標榜する信仰はまず警戒を要すべきである。ところが多くの人はそういう信仰をかえって有り難く思う傾向があるが、これらは霊的知識のないためで無理もないが、心すべきである。また自己の団体以外の人々と親しめないというような独善的信仰も不可である。真の信仰とは、世界人類を救うのが宗教の使命と信じ、自己の集団のみにこだわらず、排他的行動をとらないようにするのが本当である。丁度一国の利益のみを考え、他国の利益を無視する結果、惨澹たる敗戦の苦杯をなめる事になった終戦前の日本を鑑みれば分かるであろう。

私は信仰の究極の目的は、完全なる人間を作る事であると思う。勿論世の中に完全という事は望み得べくもないが、少なくとも完全に一歩一

歩近づかんとする修養——これが正しい信仰的態度である。故に信仰に徹すれば徹する程、平々凡々たる普通人のごとくに見えなくてはならない。そうなるのは信仰を咀嚼し、消化してしまつたからである。その人の言動がいかにも常識的であり、万人に好感を与え、何を信仰しているか分からなくらいにならなければ本当ではない。人に接するや柔らかき春風に吹かれるごとくで、謙譲に富み親切であり、他人の幸福と社会福祉の増進を冀うようではなくてはならない。私は常に言う事であるが、まず自己が幸福者たらんとするには他人を幸福にする事で、それによって与えらるる神の賜物が真の幸福である。然るに自己のみ幸福を欲し、他人を犠牲にするというがごときは、全く逆効果以外の何物でもない事を知るべきである。

(昭和二十四年御発表)

憎まれる勿れ

私は、人を憎むなという事を書いた事があるが、それと共に憎まれる事もいけないのである、というのは憎まれると、どうしても相手の怨み、嫉妬、報復等の悪念が霊線を通じて来る。それが邪魔をして、常に不快感がまつわり、晴々としな

浄霊体験記

- ノイローゼが良くなり 結石も自然に出る…
- 突然のギックリ腰 浄霊で良くなる…
- 痛みから解放され 感謝の日々…
- 体験して分かる 奇跡の浄霊…

から仕事も巧くゆかないようになり、幸運を妨げられるという訳だから大いに注意すべきである。ところが世の中には、随分人を酷い目にあわせ、不幸にさせる事を何とも思わない人間が沢山あるが、それでいて成功してほめられるような事になるのを見る人々の中では目先だけしか見えないから、やはりそういうやり方が成功すると思つて、真似をしたがる。こういう人が増えるから、世の中はよくならないのである。ところが少し長い目でみると、悪因悪果で、悪い奴の没落は一つの例外もなく必ず来るのである。

この理によつて、年中気持ちよく、仕事は順調にゆき、災いも軽く済むようになるには、右と反対に人を喜ばせ、人を幸福にする事で、この実行者こそ、賢明な人と言うべきである、そうしてこの理を知らせる事が宗教の根本でもある。

だから、私がいつもいう通り、「愚かなる者よ、汝の名は悪人なり」とは、永久不滅の真理である。

(昭和二十六年御発表)

浄霊によって真の健康体となり、運命が向上し、幸せになられた方々の体験でございます。

入会して四十年

ノイローゼが良くなり 結石も自然に出る…

唐津支部
中里忠寛 (65)



今から約四十年前（昭和五十七年頃）、私はポストに入っていた健康新聞で、新健康協会にご縁を頂きました。その頃、私は東京の大学に通っていましたが、長期休暇だったため、実家の佐賀県唐津市に帰省していました。しかし、当時は精神的な悩みがあり、どうしても小さいことが、一日中頭の中を走馬灯のように巡り、自分ではどうすることも出来ない状態でした。夜も眠れず、ノイローゼのようになっていた上に、腰痛にも悩まされて

そんな時、この健康新聞が届き、体験記を読むと、手の平をかざすだけで体が楽になったと書いてありました。もしこれで良くなるのであれば、これより良いことはないと思い、近くの唐津支部へ行ってみました。すると支部の雰囲気も良く、浄霊を続けてみたいと思いましたので、それから毎日支部に通いました。すると徐々に体調が良くなり、具合も良くなりました。大学の休みも終り、東京に戻りましたが、東京にも支部があると分かり、時間がある時は支部へ行き浄霊を受けました。その後、入会もしました。おかげ様で、今迄眠れなかったのが嘘ではないか…と思える状態にまで快復しました。

その後も体調が悪くなる時があっても浄霊を受けることで元気になり、今でも元気に過ごすことが出来ています。その中で、私が経験した一番の出来事が「結石」でした。

一時はどうなることかと…

平成二十三年（当時五十三歳）の十一月、私は仕事の関係で横浜の展覧会に出張していたのですが、出張先のホテルで尿がまったく出ない状態になりました。尿をしたくてたまらないのですが、トイレにかけ込んで出ません。苦しくて油汗が出るほどでした。ホテルでもありますが、このままだとどうなるのだろうかと思いましたが、すぐに唐津支部へ御守護御願いの電話をしました。するとしばらくして大きな丸い結石の破片（直径約11mm×10mm）が一個出ました。その直後には少し血の混じった尿が出ました。少し楽

にはなったのですが、尿量は十数滴だったり、出なかったり、という状態でした。その後、横浜支部の先生が浄霊に来てくれました。浄霊を受けると尿が何滴か出ては、出なくなるという状態になりました。

その後も浄霊を受けていますと、大きな丸い結石の破片（直径約13mm×11mm）が三個、たて続けに出ました。結石が出た直後に血の混じった尿がたくさん出てすっきりし、「ああ救われた」と思い、ホッとしました。それから尿量も増え、通常の状態に戻りました。

次の日、朝起きると、頭が重たくお腹が痛かったのですが、血の混じった水便が一日から二日続いた後、スッキリとなりました。

また十二月には、イスに座っていて突然尿もれしたような感覚になったので、すぐにトイレに行きますと、ズボンの裾から結石の大きな破片（直径約15mm×11mm）が一個ポロリと落ちてきました。まったく痛みもなく出てきたのには驚きました。

私は平成十八年から結石が出ていたのですが、最初は丸い結石（直径約3mm×7mm）、その後は結石の破片が合計で二〇個ほど出ています。その間は尿道等に違和感があったり、痛みがあったり、楽になったり、その時々で違っていました。作陶の仕事も一日も休むことなく過ごさせて頂きました。

大きな結石が出た後はまた一段と痛みがなくなり楽になっております。本当に有難く、浄霊の素晴らしさに心から感謝するばかりです。

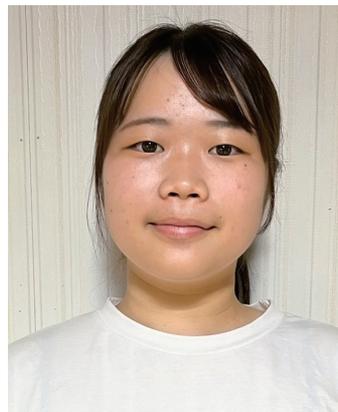
一人でも多くの方が、浄霊にご縁を頂かれることを願ってやみません。誠に有難うございました。

（佐賀県唐津市）

腰の激痛

突然のギックリ腰 浄霊で良くなる…

周南支部
東百子 (18)



私は、両親が新健康協会の会員でしたので、生まれたときから浄霊を受けて育ちました。これは、私が十四歳の時の体験ですが、平成三十年の九月二十四日の夜遅く、前かがみの状態で、次の日の学校の準備をしていました。すると、腰の下の方が「ピキッ」となったような気がした瞬間、激痛が走り、膝をついてその体勢から動けなくなりしました。その様子を見た母が、すぐその場で浄霊をしてくれました。身動き一つ取れない状態でしたが、何とかそばに敷いていた布団に横になることが出来ました。

腰痛の他に頭痛、耳鳴りがして、目の前に白いものがチラチラし始めましたが、浄霊を受けていると眠ることが出来、気付いたら朝までぐっすり眠ることが出来ていました。その後、寝返りも打てるようになり、やがてトイレにも行けるようになりました。

浄 霊

浄霊は、大自然のエネルギーであり、病気やあらゆる問題で苦しんでいる人、悩んでいる人を救う方法です。

浄霊によって魂は清浄化され、肉体が健康になっていきます。まずは試されてみてはいかがでしょうか。

浄霊を受けるたびに動きやすくなり、それまで感じていた腰に板が入っているような感じが、徐々に良くなり、夕方頃には少し和らいでいました。体はとても重く感じていたのですが、食欲はあり、夜になる頃には次の日は学校に行きたいと思えるようになりました。

二十六日には少し腰が痛むくらいで、それほど苦痛もなく登校することが出来、この日は四時間授業で荷物も少なかったもので、とても有難かったです。これも明主様に守っていただいたているからこそ…と感じました。

その後、今まで以上に体が軽くなりました。ギックリ腰が一日で楽になり、心より感謝しています。

（山口県周南市）

足の脱臼・難産

痛みから解放され
感謝の日々…

白木原支部
濱崎富美子
(55)



私は平成三年六月の結婚をきっかけに佐賀県から福岡県へ移りました。その時、夫の会社に訪問されていた保険屋さん（新健康協会の会員）が家へ来られ、一緒に働くこととなりました。その時に新健康協会のことや「浄霊」という健康法があることを教えてくれました。

働き始めて二、三カ月たった頃、仕事中に左腕が上がらなくなりましたので、その方をお願いして支部に連れて行ってもらいました。支部で初めて浄霊を受けると、左腕がスツと楽になりすごく嬉しかったことを覚えています。また、支部でたくさんの方が楽になっっている様子を見て「浄霊は間違いない」と確信しました。

一年後、子供を出産するために実家へ帰ることになり、しばらく支部へ行けなくなるので、自分でも浄霊が出来るようになりたいと思い、平成四年

十二月に入会しました。

平成五年一月十八日に出産しましたが、この時も奇跡を頂きました。頭が大きかったため、予定日より早めに入院して陣痛促進剤を打つことになりました。しかし難産で、なかなか出てこなくて、最後は吸引してもらい、やっと出てきました。無事に生まれてきてくれたことに感謝と感動でいっぱいでした。無事に我が子を抱くことが出来ました。しかし出産時、出血が止まらなかったため、そのまま動かさずにいたのですが、その後落ち着いたので分娩台を降りた途端、貧血のような状態で倒れてしまい、その瞬間すごく明るい場所へ移動しました。そこは子どもたちがたくさんいて、花や風車がありました。「ここはどこだろう。私の子どもはどこにいるのだろう」と探していたら、誰かが私を呼んでいることに気づき、我に返ることが出来ました。するとそこはベッドの上でした。側に母がいたのですが、母が安心した様子を見て、私が意識を失っていたことに気づきました。無事お産が出来て本当に嬉しかったです。これも明主様に御縁を頂いていたからこそ奇跡とと思っています。

この他にも、足の脱臼でもおかげを頂きました。これは母に聞いた話ですが、私の方の足を脱臼して生まれてきたそうです。オムツを替える時に足を開こうとすると泣くので、「どうしてだろう」と思っていたそうです。すると十カ月検診の時に足の脱臼が分かり、ギブスをつける治療を受けました。

この治療が影響してか、三十九歳から四十五歳頃まで右足の脱臼になりました。以前から、足の動きが悪かったり、何も無いところで転びそうになったりしたことはありませんが、こんな

にも痛くて歩けなくなり、夜中目が覚めたりすることは今までに経験がありませんでした。それからというもの動こうとすると足が痛むため、なかなか思うように動けず、この痛みが続きました。それでも、浄霊を受けると少しずつ楽になり、徐々に動けるようになってきました。動けることが嬉しくなり、その後仕事をしたのですが無理をしまい、また痛みが出るようになり、それでも浄霊を受けると少しずつ楽になり、再び歩けるようになりました。

(福岡県大野城市)

成長痛・背中の痛み

体験して分かる
奇跡の浄霊…

大牟田支部
水谷香菜
(29)



私は今まで、様々な症状を経験しましたが、いつも浄霊で楽になっていきます。その中でも印象に残っているの

が、小学五年生の時の成長痛と、二十歳で水腎症と疑われた時のことです。

私は小学五年生の頃から中学生になるまで、成長痛で上は肩から下は踵まで様々な箇所が痛み、夜になると痛みが増し、泣いていました。腰が痛んでいる時は歩くことが出来ず、学校にも行けなかったため、母が支部に連れて行ってくれて、毎日二回浄霊を受けました。日が経つにつれ、一日に歩ける歩数が五歩から十歩、二十歩と少しずつ増えていき、三週間が経った頃には普通に歩けるようになりました。それまでは歩くということに対して、あまり考えたことはありませんでしたが、歩きたくても歩けないという時期を経験したからこそ、普通に歩けることがどんなに素晴らしいことなのか、感謝の気持ちでいっぱいになったのを覚えています。

二十歳の頃は、仕事中に急に左の背部が痛み、職場の方から病院で診てもらった方がいいと言われ、近くのクリニックを受診しました。エコー検査をしてもらったところ、水腎症の疑いがあり、石もたくさん写っているからすぐに専門の病院で診てもらった方がいいと言われました。クリニックの先生自ら泌尿器科のクリニックや大きい病院に電話してもらいましたが、休診だったため、手術中だったり今日診られないということで、翌日朝一番で受診するようにと紹介状を書いてもらいました。

翌日病院に行くと、たくさんのお患者さんがおられたので、二時間待ちの間がありました。その間、自分で腎臓のあたりを浄霊しながら待っていました。すると、その間に三回もトイレに行きました。しかし不思議と前日のような背中の痛みはありませんでした。時間になり、エコー検査をしてもら

らったところ、腎臓には何も写っていません、水腎症の症状も見当たらないと言われました。紹介状と一緒にもらったエコーの写真を見ながら、「確かにこんなに石がたくさん写っているのにおかしいね」と不思議そうにされていました。私はクリニックを受診したその日に専門の先生の手が空いていなかったことと、当日の二時間の待ち時間で浄霊が出来、トイレに行けたことと、いつのまにか石が自然と出たのかなと思いい、本当に有難く明主様に感謝申し上げます。

(福岡県大牟田市)

浄化作用

人間には体内の毒素を排除して健康を促進しようとする働きがあります。例えば、カゼの場合、蓄積してきた不純物や体外から入ってきた毒素を浄化するために熱や痛みが出ます。そして、その結果ハナやタンなどが体の中が掃除され、霊・体共に清浄化されます。その毒素排除の過程を「浄化作用」と言います。ですから浄化作用は、体の不調和を調和させる大切な清掃作用でもあるのです。

美の世界

美によって人間の情操を高め、生活を豊かにし、人生を楽しく意義あるものにする事ができます。

金重陶陽

《備前茶碗》

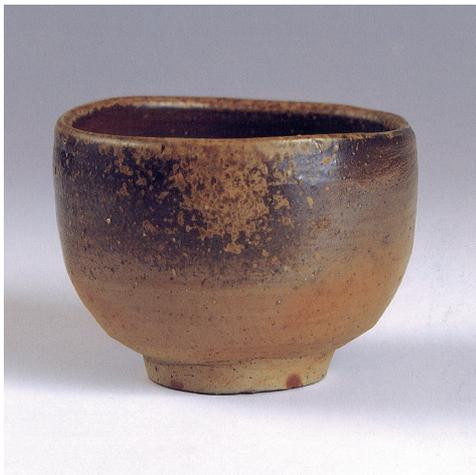
この焼締の茶碗は、備前焼「中興の祖」と称された金重陶陽の手によるものです。陶陽は一八九六（明治二十九）年、現在の岡山県備前市伊部に、備前窯元六姓の一門である金重家の長男として生まれました。古墳時代からの須恵器の流れを汲みつつ独自の窯と技術を発展させ、鎌倉時代後期に現在のような特徴をもつものとなった備前焼は、十六世紀頃、南大窯、西大窯、北大窯の三方所の共同の大窯に集約されるようになり、これらを運営したのが金重、木村、寺見、頓宮、大饗、森の窯元六姓です。

そんなやきものの家に生まれた陶陽は、五歳頃から土いじりを始め、十六歳の時には自ら販売するまでになったといえます。ただし当時、他の産地の隆盛に押され苦境に立たされていた備前の窯元たちは、主に「細工物」と呼ばれる、彫刻的な置物などをつくっていました。同じく陶陽も三代頃までは細工物づくりを中心としていたようです。しかし、さまざまな工夫を重ねて作陶を続ける中で、三十代半ば頃に古備前の研究から桃山期の備前焼の土味を出すことに成功します。以降は茶器の制作に本格的に取り組みようになり、近代備前焼をリードする存在となりました。そんな金重陶陽が範とした桃山陶とはどんなものだったのでしょうか。

もともと、丈夫なつくりの備前焼は壺、甕、播鉢など、水や食料品を蓄えるものや調理器具など日常使用の実用品として重宝されてきました。その強度は今でも「投げて割れない」といわれる

ほどです。釉薬を使わず高温で長時間焼き締められる堅牢な岩肌のような質感は、茶人たちの美意識を刺激し、まずは水指や花生として、それも桶や壺などの日常器を転用して使われました。桃山陶とはこうした佗茶の確立した頃、中国陶磁から国産のものへ、技巧的なものから作為を削ぎ落とししたものにへと価値の転換が起きた頃に見出された、素朴で力強い土味を持ったものといえます。自分が育った時代の主流にながされるのではなく、かといって古いものをそのままなぞるのではなく、歴史に学びながら実験を重ね、「今」ものを生み出す挑戦こそが伝統をつなぐことができる。この茶碗からは、そんなメッセージも受け取ることができそうです。

解説 松田愛子



晴明会館

「伝承の趣」前期展 期間 6月1日(水)～12月13日(火)

※晴明会館お問い合わせ ☎(092)661-1535

健康新聞についてのお問い合わせは (092)661-1531まで

新健康協会総本部 福岡市東区唐原 6丁目7-1 (092) 661-1531 (代)

Table with 4 columns: Prefecture, Branch Name, Address, and Phone Number. Lists branches across various Japanese prefectures including Hokkaido, Tokyo, Osaka, and Fukuoka.

[URL] https://shinkenko.jp